

広島県聴覚障害者センターだより



Hiroshima Chokaku Center

広島県聴覚障害者センター

〒734-0007 広島市南区皆実町1丁目6-29

電話：082-254-0085

FAX：082-254-0087

E-mail minami@hiro-chokaku.jp

URL hiro-chokaku.jp

No.3 2017(平成29)年9月1日発行 (毎月1日発行)



災害とコミュニケーション

8月のある日、呉市で開かれた呉市総合防災訓練に参加してきました。この訓練には2012年から毎年参加していて、今年で7年目になります。呉地域聴覚障害者防災連絡協議会のメンバーと一緒に、「耳きこえません」「手話できます」「筆談します」と書かれたビブスを着用して訓練へ参加し、さらに展示ブースで聴覚障害者防災グッズの展示をしました。

今年は、災害時要配慮者(障害者・外国人等)への対応訓練があり、医療機関による応急救護訓練に協力することになりました。これは、応急救護所において、ろう者2名が負傷者になり、医療機関による処置を受けるという訓練です。私は、「頭部打撲、自力で歩ける。」という設定でした。救出担当の消防署員に救護テントまで案内され、応急救護所内でのコミュニケーションはホワイトボードで行われました。

「ケガの状態はどうか?」

「(頭部を指さす)」

「頭部のケガですね?」…

参加したろう者2人とも筆談によるコミュニケーションという設定には問題がありますが、担当された看護師さんは、ろう者とは話をされた経験がないのか、時々、口話で話しかけて来られます。そのたびに「書いてください。」とお願いし、コミュニケーションのもどかしさを感じつつ、何とか訓練を終えました。

コミュニケーションに関しては、「コミュニケーションボード」なる便利なものがあります。これは、イラストを指差すことで自分の意思を伝えるツールとなるものです。これは実際に、呉消防署などでも使われています。

筆談に関しては、「磁気式メモボード(電池使用で軽いボード)」「携帯型筆談用メモボード(何度でも書き換えのできるホワイトボード)」という便利な機器もあります。これは、センターに展示されています。

手話通訳関係でも、2016年の熊本地震の時には、電話リレーサービスを遠隔地通訳、安否確認、聴覚障害者からの相談などに使用し、とても役に立ったという話を聞きました。

9月1日は「防災の日」です。災害時のコミュニケーションについて考えてみませんか?



(松岡)